

人工血小板に止血効果

慶大・早大が確認

慶応大学の谷下一夫教授、慶大の武岡真司・助教授の共同研究チームは開発中の人工血小板が実際の血小板と同様に血管の破損部分に凝縮しやすく、止血効果が見込めることを確認した。微細な血管を模擬した実験で、どのような動きをするか観察した。

慶大の谷下教授は、糖たんぱく質からなる直径一ミクロン（百分の一）の球形。研究チームは止血効果を評価するため実験した。断面が縦横二百ミクロンの細管を用意、途中に糖たんぱく質と反応する物質を塗り、血管が破損している状況を再現した。この管の中に、様々な速度で人工血小板を流した。

高速カメラで撮影したところ、流し始めて数分後には人工血小板が壁面に集まり、面に沿って転がるように動いた。これは実際の血管内での血小板と同様の挙動という。研究チームは人工血小板の実用化に向け、凝集効果に影響する糖たんぱく質の性質などを調べ、最適な構造を探る。